

令和 7 年度珠洲市総合教育会議

会 議 概 要

- 1 開催日時 令和 7 年 8 月 1 8 日 (月)
開会 午後 1 時 2 3 分
閉会 午後 3 時 3 分
- 2 開催場所 市庁舎 3 階会議室
- 3 出席者 ○珠洲市 珠洲市長 泉谷 満寿裕
○珠洲市教育委員会
教育長 吉木 充弘
教育長職務代理 大句 哲正
委員 濱 育代
委員 葛原 秀史
委員 刀祢 喜春

○事務局関係
総務課 課長 加賀 真樹
課長補佐 石尾 泰宏
教育委員会事務局 事務局長 岸田 和久
参事(兼)次長 太佐 真一郎
次長 徳田 聡美
次長 前田 保夫
次長 山下 裕子
主幹(兼)係長 河崎 裕子
- 4 傍聴者 2 名
- 5 会議内容 別紙のとおり

1 開会	泉谷市長あいさつ まだまだ厳しい状況にあらうかと思えます。そしてお忙しい中、吉木教育長をはじめ教育委員の皆様、ご出席をいただき誠にありがとうございます。 学校の再編統合について、非常に難しい課題だと認識しております。復興に向けての重要な時期でもあります。こんな時だからこそ、できるだけ現状維持したいという思いもございます。地域から学校がなくなると、復興に向けた力が弱まるのではないかと。地域のそれぞれの再生復興に向けて、落胆や諦めに繋がる恐れもあらうかと思えます。一方で、現実問題、子供さんの数も減ってきていますし、昨年の出生数は 35 名で、今年は 7 月末までに確か 12 名だったと思えます。こんな状況の中でどうしていくか。これはしっかりと議論をしなくてはならないと思っています。 前回、昨年度の 2 月 28 日に総合教育会議を開催しまして、皆様方から忌憚のないご意見も頂戴したところです。大句職務代理さんからは、5 年先、10 年先に向けて見通しを示すことも重要ではないかとのご意見もございました。 今、現時点におきまして、正直なところ、私としては答えを持ちあわせている状況ではありません。ですので、一つの答えに向けて進めていく状況ではないわけですが、実際に今すぐ統合しようと思っても、どこかの学校にもう一つの学校が統合するのであればまだしも、3 校を超える学校が統合しようと思っても、スクールバス等を取り入れる場所があるかという、各学校が物理的にそういう形にはなっていない。そしてまた、緑丘中学校を除いて、各学校のグラウンドには応急仮設住宅が建ち並んでいる状況です。統合しようにも、すぐには難しいところもあります。 こうした中で、「望ましい教育環境のあり方」を検討するよりも、「魅力化」に絞って議論を重ねる必要があるのではないかと。「教育環境の魅力化検討会」あるいは「より魅力ある教育環境のあり方検討会」といった形で、今後、広く関係の方々にご意見をお聞きすることは、統合するにせよしないにしても、現時点において重要ではないかという思いがございます。 本日の総合教育会議ですけれども、現状はどうか。あるいは、広くいろんな方々のご意見をお聞きすることが重要であると先ほど申し上げましたけれども、ではどういう形でご意見をお聞きしていくのか。皆様方から思いをお聞かせいただければと思いますので、何卒よろしくお願いします。
吉木教育長あいさつ	泉谷市長におかれましては日頃より、教育委員会所管の事業推進に多大なご理解、ご支援ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。また、教育委員の皆様には大変お忙しい中、珠洲市総合教育会議に出席をいただき、ありがとうございます。 子供たちの夏季休業も残すところ 2 週間あまりとなりました。これまで子供たちや教職員に特大大きな事故等もなく来ておりますことに、感謝しています。 8 月上旬に中学生の北信越大会が行われました。緑丘中学校の三澤さん、大谷小中学校の川端さんが砲丸投げで、北信越 2 位、3 位に入賞しました。また、緑丘中学校の小町さんも四種競技で 2 位入賞と、少

	人数ではありますけれども、子供たちの活躍が見られてとてもよかったと思っています。 また、8月8日には親子議会が開催されました。13名の子供議員1人1人の質問に、市長さんからは本当に丁寧なご答弁をいただきました。いずれも復旧復興に関連した質問でしたが、子供たちにとっても、とても良い機会になったのではないかと思います。 また、14日に蛸島で行われた「太鼓と踊りの夕べ」には、飯田小学校や蛸島小学校の子供たちも地域の方々と一緒に出演し、活躍していました。このあと緑丘中学校の吹奏楽部が大阪万博に参加し、演奏するという事も伺っております。 このように、いずれの学校も少ない児童生徒数ですけれども、地域や保護者と一体となった教育が推し進められ、子供たちも精一杯頑張っていると受け止めています。しかし、子供たちの数は発災前と比較し、27%あまり減少している状況が続いています。 こうした状況等も踏まえ、本日の総合教育会議におきましては、今年2月の会議に引き続き、今後の「望ましい教育環境のあり方」についてなど、泉谷市長と教育委員が忌憚ない意見交換で思いを共有し、これまで以上に十分な意思疎通を図り、よりよい教育環境の実現を目指すことができれば幸いに思います。 そして、今後とも皆様方のご理解、ご支援、ご指導をいただきながら、さらに本市の教育環境が充実した内容となりますように、委員会としての役割をしっかりと果たしていきたいと思っています。本日はどうぞよろしくお願いします。
2 議事	
事務局	【珠洲市の教育環境の現状及び今後の検討スケジュール（案）について、資料を基に説明】
泉谷市長	現状を改めてご覧いただいて、本当に厳しい状況には違いないと思います。 冒頭に少しお話ししましたが、再編統合を進めるとしても、なかなか簡単にはいかないことがあります。全ての学校が、ほとんど老朽化していますので、そこに児童生徒を集めても、何年先まで校舎が持つのか。あるいは老朽化した校舎に若干手を加えたとしても、本体がいつまで持つのか。ふさわしい用地を準備して、新たな校舎を建てるとしても、用地の取得に時間がかかると思いますし、建築には予算も期間も要しますので、すぐには難しい。若干修正という形で統合を進めていくのであれば、数年は大丈夫だと思いますけれども、その先のことを考えていかないと、場当たりのになってしまうこともあります。 ただ、統合ありきで進めていく思いでは私自身もございませんので、統合しないとした時に、こういった形で教育環境の魅力を高めることができるのか。誰がどう見てもこの答えしかないという問題ではありませんので、広く多くの方々のご意見をいただきながら考えていく必要があると思います。 今ご覧いただきました現状、また今後広くご意見をいただきながらどう進めていくのか、非常に難しい問題ですが、皆様方からご意見を賜りたいと思います。

今日の資料をいただいて、大変ありがたかったです。私、いろんな所でよく言うのですが、正しい情報を収集して、伝達をして、お互いに共有して。これはとても大事なことだと思っています。今までは漠然と、出生数が去年は40人を切ったという話を聞くだけでしたので、厳しいことを再認識したところです。

過疎化に向かっていたところで、令和6年1月1日の大震災がありまして、更にまたガラッと変わってしまった。今、非常時の中にあっても子供たちのための教育ということで、教育委員会事務局、それから学校現場ではいろんな工夫をされて、子供たちの教育の質を落とさないための努力をしておられる。これは、一般市民として大変感謝するところです。本当に素晴らしいと思っています。

グラウンドがないので、子供たちを送り迎えして、合同で体育体験みたいなものをされる。あるいは児童数が少ないので、これは実際に学校訪問で見せていただきましたが、通信でやっておいでる。これも一つの工夫だなと。あるいはグラウンドがなくて運動する場がなく、小中学校の近くに仮設の運動場で、実際使っているところや、2学期から使うところもあって、これもありがたいと思っています。

ただ、これは非常時の工夫に対する感謝という気持ちが大きいです。平常時における学校環境、私たちが望む理想的な学校環境から見れば、やっぱり劣っているのが現実だと思います。できるだけ早く、当たり前の学校環境に戻すことが私は必要だと思っています。

今、市長がおっしゃったように、復元するには時間がかかります。しかし、実際に保護者とか、そういう方々の話を通じて、いつまでもこの状態は嫌だと。今は仕方ないですよ、でも、先々こうなるという見通しが欲しいですよ、という話になることが多いです。私もそれは賛同します。できるだけ、何年先にはこうなるだろうという見通しが必要だと思っています。

学校教育で、よりよい教育環境を提供するのは大人の責任だと思います。昔からよく「知育、徳育、体育」というのがあって、義務教育は特にそのバランスが必要だと言われています。多分、教育基本法もそれがベースにあると思いますけれども、これを実現するために、今果たしてどうかと考えたときに、やっぱり足りないものがある。そういう面から、できるだけ早く平常時に戻すような努力を、我々大人が、行政がやるべきではないかと思っています。

いろんな制約があります。特に足りないのは、体育の部分ですね。児童生徒がグラウンドで飛び跳ねる、一生懸命走る。これが絶対必要だと思っています。例えば50m走で、小学校3年生のときは9秒かかったと。これが1学年上がったら8秒台になったと。もう少ししたら7秒台で走れるようになったと。これは小さいことの積み重ねですけども、自分はこれができたという達成感、成就感がとっても大事だと思います。

今、非常時ですから工夫して運動場ができて、多分折り返し走になると思います。突き抜けられません。これはできるだけ早く突き抜けて、最終的に100mを一直線で走る。できたら競争。タイムを取る。そうやって、自分は成長したという実感を与えることが必要。そういう面で、グラウンドがないのは非常に大きいと私は思っています。

それから知育の部分でも、この前学校訪問で見せていただいたのは、正院小学校と蛸島小学校で、どちらも複式学級。複式と複式のテレビ画

	面を通じたやりとりでした。これからの時代、ああいう機械を使ったやりとりは必要だと思います。ただ、それがなくても、対面で話しができれば、もっと教育効果はあるのではないかな。あるいは教育的な効率は求められるのかなと思います。 そういう面で、「知育、徳育、体育」と言いましたけれども、平常時から見ればちょっと欠けているところがあるのかなと思っていて、じゃあどうするかという話ですけれども、前回もお話しました。今日は具体的な数字を見せていただいて、7つの小学校、2つの中学校、2つの義務教育学校全部が10年20年先、このままいくとはとても思えません。 例えば、私は正院ですけれども、生まれたところに学校がなくなったら、これは悲しいものです。地域から学校がなくなるのは悲しいと、これは誰でも思います。でもそれを言っていて、引き伸ばしては問題解決にならないかなと思います。 珠洲市に住む子供たちの教育のために、大きな観点から違う道を模索するのが大事かなと思っています。そういう面で、今教育委員会事務局から提示されたスケジュールに従って、これからどうするかという意見集約を、一つにできるだけまとめていくのは、私は絶対必要だと思います。珠洲市の学校教育をどうするかという中長期のビジョンをできるだけ早い段階で立てていただきたいと思います。
濱 教育委員会委員	今の職務代理さんのお話を、私は僻地複式教育研究会に所属しているとき、10年も20年も前から同じような会話を研究会で聞いてきました。今回は、震災で珠洲市も急激にそれが進む現状をこの資料で見せていただいて、すごく大変な状況下にあることをひしひしと感じました。 先ほどの、場当たりの解決策を作ってはいけないというところと、珠洲の魅力がさらに深まる教育環境を作らなければならない。この2点をすごく大事にしながら、地域の方、保護者の方、市民の方に、タイムスケジュールを示しながら、場当たりのにならない珠洲の教育がすごく深いものだというところを示してあげれば、市民の人たちもみんなも安心して、それまでの時間を過ごせるのではないかなと思います。 私自身、珠洲市復興計画の中で、基本理念の「強靱で安全な新たな地域づくり」という部分と、基本方針の2「学びの環境の再建」、「公民館を拠点とする地域力の再建」、方針5の「つながる社会の実現」を具現化して示してあげることがすごく大事ではないかなと思います。 活字だけを見ると、一体何がどう変わるかということがなかなか皆さんにはわからない。 7月27日に、金大の青木先生や京大の西村先生が開いてくださった地震のシンポジウムで、「正しく学び正しく恐れることが大事だ」というお話をしてくださいました。そのお話の中で、震度7クラスの地震が起きる可能性は、今後非常に小さいだろうということを聞いて、市民の皆さんもそれを聞いた上でいろいろと考えればいいかなと思いました。例えば、西村先生と青木先生は、地震やいろんなところを想定して具現化する。先ほどの市長さんのお話の場当たりのにならないというところで、学校教育をどのように何年間このように進める、その後このような学校をこうやって構築していくというところを示してあげれば、この西村先生や青木先生がお話された、全国でも震災を受けた後の

	モデルケースになる学校、モデルケースになる姿勢になるのではないかとこのあたりが、ここを指しているのではないかなと思いました。 ですので、タイムスケジュールや具体的なことを示すところがまず第一歩で、そのためにはいろんな人といろんな視点で話し合いを今後積んでいかないと駄目かなあとと思います。 2点目は、8月8日の親子議会で、子供たちの発表を聞かせていただきました。本当に子供たち、よくあれだけ考えるな。大人が考える以上にいろんなことを大切にしていきたいという思いを持っているなということが、すごくよくわかりました。 震災で2人や3人になった子供たちが、堂々とたくさんの人の前であれだけ話せる。珠洲の子供たちのすごい力だと思いますが、その力はなぜ生まれているか。学校が小さくても、人数が少なくても人を説得する力を持っている。そこを魅力として、次の学校も作り上げていかなければいけないのではないかなと思います。 将来的に、学校がいくつか統合して、今と同じ校名を持たない学校が出てくるかもしれませんが、その珠洲の子たちの発信力はどこから来ているのかということをしっかり受け継いで、次の学校づくりの準備を教職員も行政もしていかなければいけないのではないかなと思います。 スケジュールが市民やいろんな人に見えるようにすること。小さくても誇れる学校はいっぱいあるから、その精神を受け継ぐ学校づくりをしていくべきだという2点を話しました。
泉谷市長	本当に難しい課題ですけれども、葛原委員さん、いかがですかね。 前は学校統合によって、その地域の伝統であったり、歴史であったり文化が希薄になるということを、ものすごく心配されていらっしやう。いずれにしても、小学校統合ということになると歩いて通えないといった問題も当然出てきます。そんなことも含めて。
葛原教育委員会 委員	今市長さんが言われたように、今年2月の総合教育会議で、私は統合には反対という意見を述べさせていただきました。その理由は、一つには地域性は学校があってこそ育まれる面もあるということ。それから子供たちがその地域の学校に通うことは、知らず知らずのうちに低学年からその地域の方と関わりながら6年間過ごしていく中で、自分はその地域の人間だという、子供たちのアイデンティティが培われるのではないかな。もし統合してしまうと、そういう機会が薄れるのではないかなと思ひまして、統合しない方がいいという意見を述べさせていただきました。 その後、教育委員会で、学校訪問やいろんな公開授業等で各学校へ回らせていただく機会も多々あり、授業風景や学校での子供たちの様子、学校生活を見せていただく中で、だんだんこれが、子供たちにとって良い教育環境なのかという疑問を感じることもございました。 特に、先ほど大句委員も言われましたけれども、オンラインで繋いで他校の生徒と会話する交流授業もかせていただきましたが、先生が結構大変な状況もあって、これも課題があるなと感じました。反面、各小学校の高学年が緑丘の市営グラウンドに集まって、体育交歓会とかスポーツテストを合同でやっている姿を見ると、こういうやり方もあるなと。1校1校で実施するのではなくて、市内の小学校が集まっ

	て、体育や、できれば授業も１校という枠にとらわれずに合同で、同じ課題に向き合っていくのは、先生も大変でしょうけれどもそういったやり方もあるのではないかと、学校を見学する中で思いました。 今日こうして将来的な児童生徒数の見込みのデータを見せていただきましたけれども、皆さんは結構驚かれたかもしれませんが、私は逆にこれを見て安心というか、こんなものかという感覚です。今後このような推移であれば、私は現状でもいいのではないかという思いです。 先ほども言いましたけれども、魅力ある教育環境を作るにあたって、各学校は少人数だけれども、市内の小学校が集まって体育の交歓会をやるとか、飛躍しますけれども、全部の小学校が集まって体育祭や運動会をやるとか。学校行事関係は市内の小学校を集めてやればいいでしょうし、授業もオンラインを使って、交流的な授業で同じ科目をオンラインで繋いでやっていくとか。そういった工夫をしていけば、それも一つの売りとして、この震災後の教育で珠洲市はこんなことをやっているよというPRにもなると思いますので、安易に統合を考えるよりも、今現状ある学校の中で、新たな教育のカリキュラム的なものを考えていけばいいのではないかというのが私の現在の意見です。 もう一点、今日は「望ましい教育環境のあり方」について、皆さんの意見をお聞きしていますけれども、学校の教育環境は、その地域の復興状況や、地域環境と並行して議論していく。 例えば新たに建てるとか、複数の小学校を統合するという、いろんな意見が出てくるかもしれませんが、その小学校がある地域の現状。人口もそうですし、復興状況が絡んでくると思いますので、そういった点はこれから区長会やまちづくり協議会とのディスカッションもあると思いますので、そういった方々の意見も取り入れながら、この望ましい教育環境のあり方を考えていかなければならないと思いました。
泉谷市長	難しいですね、本当に。自分の地域から学校がなくなるのであれば、自力再建についても自分の今までの地面じゃなくて、こっちに行って建てようかということになると、小学校がなくなる地域は、ますます若い方が住まなくなるということを引き起こしかねない。かといって新たな学校、特に新校舎を建てるということになると、もうどこかで決めないで、どんどん後ろにずれてきます。 刀祢委員さんどうですか。宝立の児童生徒数の推移もなかなか厳しい状況ではありますけれども、それだけ被害が大きいというのもあるうかと思えます。
刀祢教育委員会委員	私の中学校時代のことを考えてみれば、学校は嫌いでした。勉強も嫌いでした。でも、学校は行っていました。なぜかというと、友達がいたから、学校に喜んでというか、進んで行っていました。友達というのは一番大事なものではないかと思っています。 友達は好きな人、嫌いな人もできると思います。友達というのは少人数では難しく、先ほどオンライン授業や連合運動会を開催して交流してはという話もありましたけれども、私はなかなか友達環境というのは非常に難しいのではないかと思っています。 友達というのは、同じ方向性や目標に向かっていろいろな楽しい会話をしたり、相談したり。そういう仲間が友達で、友情が芽生えるのでは

	ないかと思っています。友達がいるから将来珠洲を出ていったとしても、正月や盆、祭りに帰ってきて、友達に会いたいと思うので、友達が少人数の学校では難しいのかなと思っています。 私自身、今の資料を見て、今後非常に怖いなと感じています。今の学校にしても、まだ改修工事も始まっていません。工事が始まってでも多分数年はかかるのではないかと思っています。できれば私自身は、少しでも統合の方に考えていきたいなと感じています。 これは地域でもそうですけれども、今回 8 月 2 日に七夕まつりを宝立で開催しました。その中で、一番先に手を挙げたのが、中学生の子供たちです。なんとかして祭りを開催して、キリコを担ぎたい。笛を吹きたい。太鼓を叩きたい。それから大人たちがその声を聞いて動きました。子供たちの声は大人たちの気持ちも動かすと思うので、今後、この資料に載っていないかもしれませんが、子供たちのアンケートも一つの案なのかなと思っています。 この珠洲に残りたいという子供たちも少しばかりいると思うので、そういう声も大事にして、これからの会議を進めていくのがいいのではないかと思っています。
濱 教育委員会委員	すみません。葛原委員の発言で、オンラインの授業がまだまだという部分ですけども、始まったばかりです。それでも学校現場は時間割を揃えたり、授業の開始時間がある程度調整して、授業がしっかりとオンラインがしやすいように工夫したり、子供たちも始まったばかりの中でやり始めている。今からそういうところを現場もそれを支える側もしっかりしていければ、もっと深まったオンライン授業はできます。そういう授業もたくさん見てきました。 ですので、学校がいくつか統合したとしても、オンラインはこれからもっと必要な時代になってくると思います。珠洲市内だけじゃなくって、全国と繋がるという意味で大事になってくる授業だと思っています。 合同音楽だったり、合同運動会だったり、いろんなところで今の子供たちが小さくならないような工夫は、教育委員会さんもいっぱい手立てをとってくださっているなと思っています。そこで培ったものは、ひょっとして学校が統合したとしても、大事になってくる部分を今歩んでいると思います。
大句教育長職務代理	私はぜひ検討スケジュール案に従ってやっていただいて、広く意見を集めていただきたいと思います。そのときに、11 の学校のうち 10 校に仮設住宅がある。要するにグラウンドがない状態になっていて、当初の予定では 2 年契約だった。これは多分もう延長になるだろうと思います。それで、あるおばあちゃんは「仮設も住んでみると良いものだね」っておっしゃっている。いやいや、仮設で満足したら駄目だよと私は思っているけれども、そういう声も出ている。要するに、長く住むつもりになってきている。当然行政はすぐに出ていけなんて言うはずもないですね。そうすると、学校現場が恒常的にそうなったら困るなと思っています。 なおさら、今市長さんから、地域から学校がなくなる、統合すると遠方からなかなか帰れないというお話もあって、それも一面あると思いますが、反面、どうなるかわからない不安がゆえに、ちょっと帰りにく

	いなという人もおります。私は中長期のビジョンを示すべきだというのはそういう意味もございます。ある程度、珠洲はこうなるというのを示すべきだと。 私もどちらかという、心情的には正院小学校がなくなるのはつらいという思いがあります。でも、そういうことを言っていられない。ある程度の統廃合を示した上で、さあ、皆さん帰ってきてください。さあここは使うことになりますよ。そうした方が、これからの行動をどう起こすかの参考になると思ったりしています。 いずれにしても、いろんな意見を聞くのは大事だと思います。情報を提供して、あるいは地域の方々の情報を収集して、共有して、方向性を見出していくのは大事なのかなと思っています。
泉谷市長	あと大句職務代理さん、統合となると、小学生がおそらくバス通学ということになると思います。もし１校に統合、あるいは今の小学校の体制が２つ３つぐらいになってしまったとして、相当の小学生が歩いて通えなくなるということであっても、これ大丈夫なのかなというのがありますが、そのあたりどう捉えられていますか。
大句教育長職務代理	正院小学校ですけれども、震災前は子供たちの通学路が決まっていました。震災があって、家が崩れていて危険だったということもありますが、今は大多数が送り迎えで、学校の近くまで認めていると思います。 私の家内は交通見守り隊で月に１、２回出るのですが、今はなくなった正院農協の前に立ちます。どこを見ても更地ですから、車が来ればすぐ分かるけれども、いつも立っています。通るのは２人だけで、あとは近くまで送り迎え。 多分、保育所も統合するときにそういう懸念があったのではないかと思いますけれども、スペースを作られて、今はもう当たり前のごとく送り迎えしていますので、そういうことも可能なのかな。 通学路はある程度長くなりますけれども、送り迎えは受け入れられるのかなと私は感じています。
泉谷市長	大谷小中でも、真浦からや高屋からとなると…
濱 教育委員会委員	西部小学校になる時点で、バス通学の子の方が多かったです。でも子供たちにとって、そのバス通学も一つのコミュニケーションの大事な場になっていて、子供たちは嫌がっていない。楽しそうでした。
泉谷市長	ということからすると、バスでの通学ということは、それほどのデメリットでもない。 あとはその地域の文化、伝統というところですね。特にお祭り。太鼓と踊りの夕べ、吉木教育長が先ほど冒頭にご挨拶されたと思いますが、蛸島小学校の児童が、ほぼ全員でしょうね。 正院では奴振り、飯田も燈籠山祭りのお囃子がありますが、そういったところが学校統合によって薄まるかどうかの懸念については、どうでしょうか。

濱 教育委員会委員	大谷は、今までも祭りの歴史や意味については総合的な学習の時間で子供たちが掘り起こしたりしますけれども、具体的に指導して下さる方は、公民館の企画の一つとしてやっていた。次の段階に入って、例えば学校が統合されたときに、葛原委員さんがお話されていたような懸念を公民館が担うべき段階に入ってくるのかなと思います。 もう一つ、今日の新聞にも載っていましたが、避難した先のトイレの数や空調の数、1人あたりの面積というものが、例えば現状の公民館だったら、あの震災のように何百人も受け入れることは多分できないと思います。 そうなったときに、例えば今の学校が、地域に公民館的な要素として残れば、災害のときの避難にも活かせるのではないかなと思います。いろんな視点を持って統合は考えなければいけないかなと思います。 ただ、プラスもあるし、マイナスもあるし。
泉谷市長	だから、唯一これしかないという絶対的な答えはないと思います。
濱 教育委員会委員	それで、どちらかになったときに、そこに今以上の学校教育をどう構築するかということが、次にとても大事になってくるかなと思います。
泉谷市長	それが、逆に相当難しいような気がします。
濱 教育委員会委員	でも、今までもきっと、統合したときにそれぞれの学校、例えば西部小は、高屋も清水もみんな統合して西部になったけれども、そこで一つ一つ、当時の先生方が、教育委員会の皆さんが構築していったのでは。 この一長一短の、長の方が大きいのか、短の方が大きいのかというのは、とても難しい選択だなと思います。
泉谷市長	葛原委員さん、統合したときに、いろいろと私も懸念されることを申し上げましたが、あと心配なところというのは。
葛原教育委員会委員	繰り返しになるかもしれませんが、例えば自分の地域に学校がなくなって別の地域に行きましたと。スクールバスも出ますよという状況を保護者目線で見たときに、スクールバスが出るのなら、とは思いますが、自分の地域に学校がないというのは、心情的に不安な面、寂しい面といいますか、地域の中で育っていくという面から言うと、それは絶対薄れていくなと。 あと震災後、市外へ出た方が帰ってくるときに、元の住所ではなくて学校の近くに居住環境を整えることも多分出てくるとは思いますし、そうしたときに、地域のあり方、地域環境はガラッと変わってくるのではないかなと思います。 だから、今議論されていたように、祭りや地域の伝統文化的なことは、確かに公民館が担う。クリアできるじゃないかなと思いますけれども、私、課外授業で飯田小学校へ何回か、祭りの話をしに行ったりもして、飯田の子は飯田の子だから話がわかる、子供たちに伝えられるような思いはありましたし、たまたま直小学校でも秋祭りの話をしに行つて、どうして9月25日に祭りをするかということを話したときに、実はそこに日置の子も一緒にいたりして、私自身が戸惑った面もありました。

	そういう面から言えば、地域に学校があった方が、しっかり伝えられるのかなと。それは公民館が担っていけばいいのですが、公民館のあり方も同時に、学校教育だけではなくて、社会教育の中で伝統文化をどう受け継いでいくかということをしかり担っていただく必要があるかなと感じます。
大句教育長職務代理	今、葛原委員のおっしゃった懸念は十分わかります。それから、理想的な地域文化を守る。これも十分わかります。ただ学校教育環境という面から見たら、地域に学校があっても、それを避けて、同級生がいる違う学校に通っている例もあります。 そういう面で、地域の伝統文化を守るのは十分わかりますが、もう細分化ではなくて、珠洲としての地域文化を守るという、もう少し大きな観点から見た方が先々どうするかという判断基準になる。そうした方がいいのではないかなと思っています。 心情的には、違うものがあります。でも、本当にこれからの珠洲を背負う子供たちのことを考えたら、珠洲全体を地域というふうに見て、方策を考えていった方がいいのかなと感じます。
泉谷市長	あとは、統合を進めようとしたときに、どこの学校に統合させていくのか。2つを1つにするのか、3つを1つにするのか、あるいはもう珠洲で、極論すれば1つ、あるいは2つ3つにするのか。 ただ繰り返しになりますけれども、全ての学校が老朽化しています。少し手直しをしたとしても、先々何年持ちますかねといったことにもなります。新たな場所を見つけて新たな校舎を建てるとなると、期間も要するけれども、そもそもそういうふさわしい場所があるのかどうか。 こういったあたりについて、何か思いはございますか。
大句教育長職務代理	10年20年先のことで、無責任になるかもしれませんが、私、昭和42年正院中学校入学ですけれども、卒業のときには緑丘中学校正院教場第2回卒業。緑丘の校舎へ通ったことはありません。そこから56、7年経っていて、市長がおっしゃったように古いと。当然建て直しの話が出てくるだろうと思います。 どこに建てるかという、私さっき言いましたように、グラウンドって絶対必要だと思います。子供たちはやっぱり外へ出て何の気兼ねなしに飛び跳ねる。走って遊ぶ。友達を呼んで鬼ごっこをする。本当に些細なことですが、教育にはとっても大事なことでと思っています。 それが今ないというのは、私は一番悲しい。仮設住宅がほとんどの学校に建っている。多分長くなるだろうと。満足している人も出てきました。時間がかかるかな。そうしたら、何か所かに集めるべきだと思います。 場所的には、今ある飯田、野々江の界隈に学校かなと思います。そのときは、緑丘中学校の建て替えが来るのならば、好き勝手言いますけれども、例えば珠洲で3校目の小中一貫校、「珠洲小中学校」。今あるグラウンドは使える。今の人数を見ますと、そこで集められますので、いきなり1つは無理かもしれませんが、同じようなタイプが他に2つありますので、集約していてもいいのかなと。他の場所を確保するのはなかなか難しい。

	そのうちに、他の 2 つは更に少なくなってきたら、しばらく分校のような扱いもありなのかなと考えています。
泉谷市長	そのときは、今の緑丘中学校の校舎を部分的に解体して新築して、という形で整えていくしかないでしょうね。敷地面積はあるでしょうけれども、かなりの複数のルートからスクールバスが学校の坂を上ったり下りたり。転回する場所も少し考えないと難しいでしょうね。
濱 教育委員会委員	今の大句委員さんのお話に、賛同する立場でお話したいのですが、地域の学校が、どこかの学校に吸収された。それは心情的に、保護者や地域の方は、そうか良かったねとはならないのではないかなと思います。 今言ったような、新しいところに入る、一からみんなで珠洲市の学校をもう一回作り上げるというものになれば、いろんなところから集まってくることもやぶさかではないのかなと思います。 でも、宝立も大谷も新しい校舎で、小中学校が歩み出しているの、そこをいきなり全部ゼロというのもどうかとは思いますが。
泉谷市長	そうなってくると、宝立小中学校はどうするのかということで、難しい問題ですね。せっかくの小中一貫校を、もうなくしてしまうのか。地域として、宝立小中がスタートしたときはそれでも小中全体で 100 名ほどいらっしやったと思いますけれども、今相当減少していますので。 葛原委員さん。統合はできるだけしないでおけるものなら、その方がいいということですがけれども、飯田から学校がなくなるというのは、相当なことでしょうね。
葛原教育委員会委員	大句委員さんのご意見を伺っていると、もう致し方ない気分にもなってしまいますけれども、もし皆さんのご意見を今集約するのなら、大句委員が言われたように、珠洲を一つの地域と思い切って考えて、統合となれば 1 校で、と思います。 ただ、今の私の心情的にはちょっと考えられない。地域に学校があってこそ、学校があってこそその地域であり、地域の人々は、その子供たちの様子を見て、地域コミュニティーを育んできたわけです。 特に、飯田の場合はいつも公民館へ来て、お年寄りと交流する会をやっていましたし、飯田の高齢者の方は、それを楽しみに公民館に集まる状況も見てきましたから、学校あつての地域、地域あつての学校という関係が、統合によって薄れてくる状況は、絶対に見えてきます。 震災後のデータにも表れていますけれども、現状のまま対策を講じていくのが今の私の意見です。
泉谷市長	濱委員さんの「より魅力ある」というところからすると、統合してなお、より魅力ある学校にしないといけない。人数が増えるということでの魅力、あるいは刀祢委員さんの「友達が増える」という意味での魅力は高まるでしょうけれども、「地域で育む」という一つの魅力が、今度薄まりかねない。どこかでこれは、公民館活動なのか、あるいは学校が統合しても、それぞれの学校に放課後子ども教室を残すとなると、これまた大変な話になるけれども、そういう形で補っていくとか、いろんな工夫を考えていかないといけないでしょうね。

濱 教育委員会委員	葛原委員さんが言われることはとってもよく分かるし、頷けます。大谷の人たちも、どこの学校の人たちも「おらっちゃんの学校」と言います。「おらっちゃんの学校」の意識をどこかで受け止めてあげないと駄目なのかなと思います。
泉谷市長	大谷小中あたりは、4 人であろうが 3 人であろうが、維持はしたいでしょうね。
濱 教育委員会委員	地域の人たちは、そういう声が大きいいし、建って間もないので、なくなるのではないかという意識はあまりない。ただ、昔はこんな運動会ができた、こんな文化祭ができたという声も出ています。 地域の人たちは、心配しながら、次はどうなるのだろうと見つめていると思います。
泉谷市長	自分も飯田小学校、緑丘中学校ですけれども、どうしてもやっぱり、それなりに年を重ねても母校という、申し訳ないですけども飯田小学校という思いが強いですね。 そうなったときに、小学校がある程度統合しても、それが自分の母校だという魅力が作り出せるか。
大句教育長職務代理	私は作り出していくべきだと思っています。みんな、その想いというのは我が身の母校、我が身が育った、それがベースにありますよね。新しく学校ができたなら、そこに入る子はそこが母校になるので、新しい母校愛、珠洲愛を植え付けていけば、成長したらそれが残るのだろうと思っています。 私達が感じていたものを、必ずそのまま投入しなければいけないということは、私はないと思っています。その子らが、我が身の新しい学校で母校として培っていけばいいのかなと思います。 いずれも余力のあるときに、ある程度の方向性を見せるのは絶対大事だと思っています。瀕死の状態になって、やめたというのは良くないと思っています。余力のあるときに必ずやる。 ぜひこの検討スケジュールで皆さんの意見を集約して、多分、統廃合止むを得ないという声が出てくると思います。反対の方も当然いると思いますけれども、やるべきじゃないかな。私はもっと大英断が必要かなと感じています。
刀祢教育委員会委員	今宝立地区も、児童生徒の全員が送り迎えをしています。以前は老人クラブさん、お助け隊、いろいろな地域の方が子供たちの安心安全の登下校を見守ってくれたのですけれども、もうそれも今は一切ありません。交流ということも、今はほとんどありません。 中学生の「わく・ワーク体験」、職場体験ですけれども、以前はずっと宝立地区のお店で職場体験をしていましたが、今は珠洲市全体として、職場体験をさせていただいています。「ふるさと学習科」というのも宝立小中にはありますけれども、それも今は珠洲市全体として、すず塩田村へ行ったり珪藻土の勉強をしたり、宝立以外のことも勉強しているので、大句さんも言われた通り、珠洲市全体で誇りを持てるまちとして子供たちが思ってくれば一番いいのではないかな。この宝立地

	区だけでなく、珠洲市全体としての魅力を持っていもらえば一番いいかなと思っています。 珠洲実業高校も、なくなったときは本当に寂しくなりました。宝立地区はその後、鵜飼駅もなくなって、衰退してしまうのではないかと考えたのですが、今回の地震で、「新しいまち」を作るためにまちづくり協議会も開いて、どうやって魅力あるまちにしていくか、皆さんと協議しながらやっているの、これから学校側としても新しい考えを持って、今後進めていった方がいいのではないかな、今一番動きやすいのではないかなと思っています。
泉谷市長	結果として、宝立小中が統合によってなくなるということがあっても、これは致し方ない。
刀祢教育委員会委員	そう思います。
泉谷市長	そうなったときに、宝立小中学校の、特に後期といいますか中学生たちが、七夕キリコまつりをやろうよという想い。これは学校がどうあれ、そういった動きは、別に将来的にも残せる。
刀祢教育委員会委員	先ほど言った、公民館なり、地域の方と協力したものを作れば、全く問題ないのではないかなと思います。
濱 教育委員会委員	大谷から出て行った子供たち。時間ができると帰ってきて遊んでいます。金沢にも一緒に行ってショッピングしたりもしています。そういう子供たちと話をしていると、帰りたいて言います。ただ、いろんな大人の都合で帰れない。そんな子たちを見ていると、先ほど出ていた「ふるさと」というものは、とても大切なところだなと思います。 葛原委員さんの、いろいろなところでふるさとを感じられるというところは、学校が新しくなったとしても、少数で残ったとしても、大事にしていかなければいけないと思います。そこを誰が受け取るか。学校が1つ、2つ、3つになったとしたら、誰が地域のところを受け取るかということも残しながら話をしていってほしいなと思います。 もう一つは、防災の観点で、今の学校が人々の命を救った、町に鉄筋コンクリートの建物があつたから救われた命がいっぱいあつたということも大事にしていかなければいけないと思います。潰すのではなく、学校という建物を次にどう利用するかというところも。
泉谷市長	いずれにしても、いろんな難しいところがありますので、もちろん総合教育会議だけで決めることではないと思います。 あるいは、名前のつけ方で「魅力」というところを出していくこともありますけれども、検討委員会で進めていくだけでいいのかなというのがあります。 そうなってくると、少しお示しさせていただいたように、できるだけ広くお話をお伺いするという進め方については皆さん、ご異論はないですか。
	【異議なし】

泉谷市長	あらかじめ、こういう形で、というパターン化をして統合を進めるということではないので、いろんなご意見が出てこようかと思います。 おそらくどうしたところで、100 対 0 で決まるものでもないと思いますので、いろいろと折衷案なり、あるいはタイムスケジュール的なことでいろんな議論がなされると思いますけれども、こういう形でご意見をお伺いしていくことについてはよろしいですか。
	【異議なし】
泉谷市長	また、いろんな段階でご意見もお伺いしたいと思いますし、こうした場があれば、できるだけご協力もお願いしたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。
吉木教育長	今日は、委員の皆さんから貴重なご意見をお伺いしてありがとうございました。本当に難しいなと改めて感じました。 おそらく、学校の規模の適正化に関して言うと、今現在の学校を残せばそれに越したことはない。それから地域に学校があればいい。これは誰もがそう思っていると思います。一方で、国は標準的な学校の規模を 12 学級以上 18 学級以下としており、教員の配置等もそれに従って決められています。 市長の述べられた「魅力ある学校づくり」ということで、珠洲市においても小中一貫校、義務教育学校を全国に先駆けて 2 校をスタートさせたことや、特徴的なカリキュラムとして「ふるさと珠洲科」、「きらり英語科」、コミュニティスクール、そういった取り組みがこれまでもたくさん行われてきたと思います。 今、どの学校もごく小規模校になってしまった中で、メリット・デメリットがあるわけですが、きめ細かな指導は十分できます。しかし、協力し合う、認め合って多様な考え方に触れる、クラス替えができない、クラスの男女の偏りがある、そういったデメリットもたくさんあります。それを何とか解消する一つの方策として、オンラインの交流授業や、合同の体育・音楽の取り組みも今進めているところです。 例えば、令和 13 年度の児童生徒数で小学校を見たときに、上戸・飯田・直以外は全て 1 クラス 2 名ないし 3 名というような学級になることが予想されます。そういった状況の中で、本当に望ましい魅力ある教育環境を、今のようにして維持していけるのかどうかということは、幅広く議論していくことが大事なのかなと思います。 学校規模の適正化の検討は、私は学校教育の目標・目的をよりよく実現するためにどうなのかというところを中心にして、しっかり考えていかなければならないのではないかと思います。 当然学校は、地域のコミュニティーの場所でもありますので、切り離せないとは思いますが、教育の目標・目的がどうしたらよりよく実現できるか、そういう魅力的な環境を皆さんからいろんな意見をさらに頂戴できればいいなと感じました。 どうメリットを生かしデメリットを補っていくか、しっかりこれからも考えていきたいと思っています。
泉谷市長	前回の 2 月に引き続き、こうしてご意見を頂戴いたしました。ありがとうございます。

	今後の進め方につきましても、できるだけ広くご意見をお伺いすることで皆様方、ご理解いただいたところですが、いずれにしても非常に難しい課題ですので、今後とも皆様方のご意見をお伺いしながら、進めてまいりたいと存じますので、どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。 今日はどうもありがとうございました。
--	---

【 終了：午後 3 時 3 分 】